

環境省エコチル調査 愛知ユニットセンターとしての取組

代表者 医学研究科 環境労働衛生学 教授 上島通浩

連絡先 ecoaichi@med.nagoya-cu.ac.jp

URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/ecoaichi/>

連携・協力者 環境省はじめ地域の医療機関、行政機関など

ポイント

地域の医療機関、行政機関と連携した母子を対象とした研究です

1 概要

- ・本学は平成 22 年度から環境省の委託を受け、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の一拠点として、一宮市及び名古屋市北区において調査を実施しています。行政、医療機関等と連携し、地域の子育てに密着した活動を展開しています。

2 活動内容

- ・23年1月から26年3月まで、行政及び一宮市、名古屋市北区、周辺地域の産婦人科医療機関の協力を得て、妊娠中の母親を対象に調査参加者を募りました。そして、参加者から生まれたお子様の健康状態を、関係機関・団体等と連携し、定期的に確認させていただいています。
- ・調査は生まれたお子様が13歳になるまで続きます。一部の参加者においては家庭訪問による環境調査を実施し、また、名古屋市北保健センター、一宮市保健センター、名古屋市立西部医療センター、一宮市立市民病院の協力を得て、発達検査・医学検査を行っています。
- ・公開シンポジウムや各種の子育て支援イベントを開催するほか、調査参加者を含む地域住民、関係機関向けの広報活動を行っています。

3 成果

- ・愛知ユニットセンターでは妊娠中の母親 5,424 名から調査へのご協力をいただきました。その後、生まれたお子様 5,554 名を登録し、31 年 3 月現在、4 歳から小学校 1 年生までのお子様及び親御様の健康状態を追跡中です。
- ・全国 10 万件のエコチル調査参加者のデータを解析し、不育症患者において児の染色体異常、先天異常、新生児仮死の頻度は増加しなかったこと、また妊娠中の血中カドミウム濃度は妊娠糖尿病の頻度に影響を与えないことを明らかにした研究論文を、30 年度に発表しました。



地域での広報活動の様子



公開講座での成果発表の様子